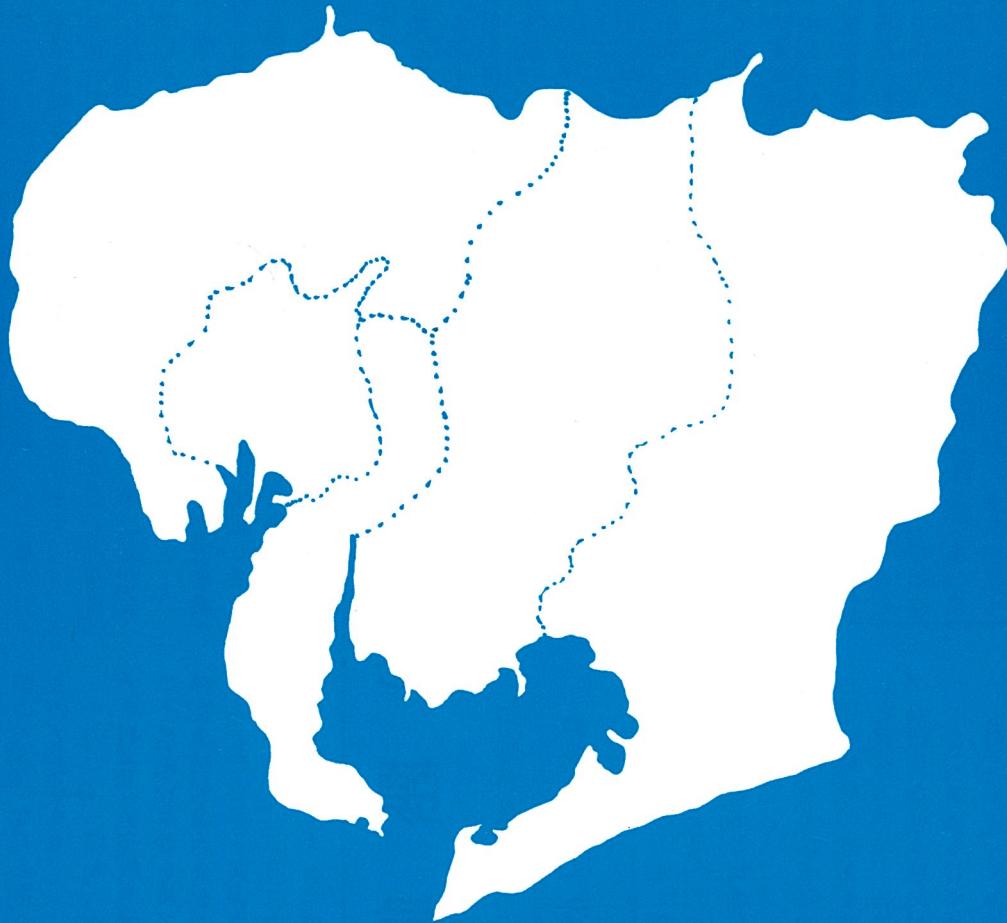


観の眼



—— 目 次 ——

| | |
|------------------|----|
| ■ 卷頭言 | |
| ■ 審判法 | 1 |
| ■ 幼少年剣道指導要領 | 2 |
| ■ 夏季少年剣道大会の反省 | 4 |
| ■ 剣心隨感 | 5 |
| ■ スポーツは私の人生だった | 7 |
| ■ 私の剣道 | 12 |
| ■ 第一回家庭婦人剣道大会 | 13 |
| ■ 剣道と私 | 14 |
| ■ クラブ紹介 | 18 |
| ■ 全日本剣道錬成大会に優勝して | 19 |
| ■ 各地区剣連紹介 | 19 |
| ■ 昭和59年度事業報告 | 21 |
| ■ 理事会・評議員会議事録抜粋 | 22 |
| ■ 昭和60年度事業計画(案) | 23 |
| ■ 大会要項 | 25 |
| ■ 段位及び形審査会 | 27 |
| ■ 級審査について | 28 |
| ■ 編集後記 | 28 |
| ■ 昭和60年・61年度役員名簿 | 29 |

第8号



愛知県剣道連盟

去る五月二十五日、昭和五十九年度役員による。最後の評議員会をおこないました。

昭和五十九年度事業報告と、

それに基く收支決算が審議され御承認を受けました。

ここに会員諸兄に御報告申し上げると共に、御支援に対し厚く御礼申し上げる次第であります。

御承認を受けました。ここに会員諸兄に御報告申し上げると共に、厚く感謝申し上げる次第であります。

当日、昭和六十・六十一年度の評議員会が引き続き実施され、役員改選がおこなわれました。

伝統ある愛知県剣道連盟の会長としての推举を受け、重任す

ることに相成りました。役員の方々をはじめとして、先輩及び

会員諸兄の御叱正と御支援あつてこそ、その責を果し得るものと存じますのでよろしくお願ひ申し上げる次第であります。

昭和六十年度の事業計画を収支予算も決定されました。昭和六十・六十一年度の理事会に於て、加藤文雄理事長が重任され、役員改選もすべて終り、昭和還歴といわれる新しい時代へのスタートをきることに相成りました。役員一同、「豊かなる心」

を求めてつある社会への貢献と、剣道の振興に又愛知県剣道連盟の発展に、心を新にし一層の努力を致す所存であります。

さて、昭和五十九年度の事業と、昭和六十年度の実施しまして大会を拝見していく感じた事

を申し述べたいと存じます。

その二是、昭和六十年から、少年剣士より一般の部まで含め二千名近い参加を得ていた熱田神宮奉納剣道大会を、一般的の部のみとした第一回尚式杯争奪剣道大会とし、五月二十六日におこなわれました。六月五日の熱

す。本来の当大会が出来得れば、全国の参加を願い、名実共に全國の大会にならん事を切に願うものであります。

そこでよいのかと思う試合が散見されたことであります。各地域に於て少年剣士を指導されて、それをよろしく御指導力の程をお願い申し上げる次第であります。

会員諸兄にはよろしく御指導力を致す所存であります。

力を致す所存であります。

会員諸兄にはよろしく御指導

御協力の程をお願い申し上げる次第であります。

会員諸兄にはよろしく御

者に対する）がある。

- 相手の打ち込み、続いて重心を下げ、両手を腰の位置まで下げて引き付ける。相手を下から押し上げるように腰を中心全

※体当たり

- 正面に打ち込み、続いて重心を下げ、両手を腰の位置まで下げて引き付ける。相手を下から押し上げるように腰を中心全

身の力で当る。受け方は、両手を腰の位置まで下げ、姿勢を正しくして、充実した気勢で腰を入れて受ける。



夏季少年剣道大会の反省

企画 加藤 万寿一
指導 中村 滋
実施 北村 敏薰

1、本大会のねらい

幼少年の剣道の在り方としては、(1)しつけを身につけさせる
(2)体力を培う
(3)正しい基本を習得させて技術の向上をはかる

ことを目標として修練させることが望ましいが、最近の傾向を見るとややもすれば、試合本位の考え方となり、ただ勝てばよい、当ればよいという弊害も見受けられるので、今回始めての試みとして基本と試合を併用した試合方法で大会を実施した

ものである。

2、基本の判定結果について

基本の判定により「1本あり」の数と、「引分け」の数とは上記の

| 区分 回数 | 判定 回数 | 小學生 | | 中學生 | | |
|----------|----------|-----|------|-----|------|-----|
| | | 試合数 | 一本あり | 試合数 | 一本あり | 引分け |
| 1~3回戦 | 550 | 371 | 179 | 410 | 275 | 135 |
| 4~5回戦 | 61 | 31 | 30 | 60 | 31 | 29 |
| 準決勝戦 | 10 | 2 | 8 | 10 | 2 | 8 |
| 決勝戦 | 5 | 2 | 3 | 5 | 2 | 3 |

| 基 本 | 試 合 | 小學生 | | 中學生 | |
|--------|--------|-----|-----|-----|---|
| | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | ○ | 275 | 209 | | |

| (2) 基本に勝った者が次の試合で 引き分ける（勝負あり） | 基 本 | 試 合 | 小學生 | | 中學生 | |
|----------------------------------|--------|--------|-----|-----|-----|---|
| | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | ○ | ○ | 275 | 209 | | |

内訳

| 基 本 | 試 合 | 試合(延長) | 小學生 | | 中學生 | |
|--------|--------|--------|-----|----|-----|---|
| | | | △ | ○ | △ | ○ |
| △ | ○ | △ | 22 | 17 | | |
| △ | ○ | ○ | 41 | 43 | | |
| △ | ○ | △ | 24 | 14 | | |

| 基 本 | 試 合 | 試合(延長) | 小學生 | | 中學生 | |
|--------|--------|--------|-----|----|-----|---|
| | | | △ | ○ | △ | ○ |
| △ | ○ | △ | 87 | 74 | | |
| ○ | × | ○ | 43 | 27 | | |

とおりであった。
すなわち、1~3回戦においては、「1本あり」と「引分け」の割合は、小・中学とも概ね2:1であり、4

回戦では、「1本あり」と「引分け」の割合は、5回戦では、1:1の5分となり、準決勝戦、決勝戦では、引分けの方が多い。

3、基本と試合の関係について
小・中学とも勝った者が次の試合にど「引分け」が多くなる。

回戦では、判定の「1本あり」の割合が多く、実力が接近すればするほど「引分け」が多くなる。

4、基本と試合の関係について
小・中学とも勝った者が次の試合に

1本取る（勝負あり）

3、基本に負けた者が試合で取り返す（延長戦或いは引分け）

3、基本に負けた者が試合で取り

返す（延長戦或いは引分け）

以上の表を見て分かることは、準決勝戦、決勝戦は、基本の引分けが多いので除外するとして、小・中学とも1回戦から全般的に

○ 基本に勝った者が試合でも1本取る割合は、基本に負けた者のおよそ3倍である。

○ 基本に負けても試合で1本取つた者が延長に入つてもさらに1本取り逆転する割合が高い。

検討 基本で負けても、いわゆる試合巧者は試合で取り返す

4、感想

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

柳生十兵衛が筆をとつた、心陰流秘伝書の一つに「月の抄」がある。その中に一十字手裏見之事」とい書きだしに続いて、絵文字を書き、さらに古詩に云う、「切返し」であつたが、よく選手達を指導しながら審判をされたので試合が順調に進行できたと思ふ。

心 隨 流 認 得 性 無 喜 亦 無 憂

文の意味が時に「ピン」と反応して供養の喜びをも頂いたことがあるがこの呪文を唱えた後は、読経後とは一味違う精神状態であった。

円明会で、倉内松堂老師に咫尺、法話を通じて、心を洗い、無我静寂の境地に没入している時、木枯らし、虫の音、列車の轟音が「フウツ」と五体を吹き抜けてゆくようなことはあつたが、あの時の精神状態は、敵を前に、振るい立つ心境で、しかも、心は静かに澄んでいる。

ふと「剣を交えるとき、この精神であつたら私の剣道は素晴らしいだろう」それにしても、尊い呪文を無鉄砲に唱え「もつたいない」という気持ちがよぎった。しばし剣道で言う放心（心を放つて隙のない）の状態が続いたように記憶している。

あれは、読経を行い、白隱さんの内觀法実施後で、精神も落ち着き、正座して、力強くリズムにのつた呪文、吸氣（吸う息）呼氣（吐く息）、五体が調和して、正しい丹田呼吸が行われ、心身が統一され、無心となり、そのうえ、呼氣とともに迫力ある呪文が、燃えるように、勇猛心を奮い立たせたにちがいない。

素晴らしいものを感じた瞬間であった。

そもそも剣道修業は、手足だけではやっているうちは、お叩きの部類であるが、修業が進むにつれて、丹田を用いるようになる。

丹田の充実は心機の発展をさそて、禪で得られるものと同様のものが得られると言われば、正しい姿勢で自然に打突することができる、教えられている。

また、徳川家康の家臣で、晩年髪を剃り、仁王禪を唱尊された「鈴木正三」は武士の心得として、一、生死を強く守つて奥歯を噛み合はせ眼を据えて忽ち死すべき心を守るべし。

一、強き馬に乗りたる時の機を持つて心を張りかけ勇猛精進の機常住が、これこそ修業者への警鐘であろう。

一、此臭皮袋更に詮なき理に眼をつけて一切執着を捨てし。

さらに百八十年前のこと、見付宿の画人「福田半香」の言葉に、当時の、はやり歌で「トツチリトン」拍子の歌があつた。

半香はそれを歌いながら画を描いていると、ある人が言つた。

「いや、ちがう。トツチリトンであります。私は長唄の拍子にのらない人の言うことだ、それは音楽を知らない人の言うことだ、私は長唄の「チンチンチンテレンツトン」の口構え、心静かに、意識を集中し、呼氣と吸氣を整えることで、心身は統一され無我の心境に誘いこむことで、教員が得られると言われば、正しい姿勢で自然に打突することができる」と言つたと伝えられている。

無心のうちに打突できる剣の名人口三味線で描いた半香画人の拍子と間のとりかた、勇猛と精進の気迫と行動を説く鈴木正三、何れも、丹田呼吸の修練によつて鍊丹、養心を極めた師であろう。

あらゆる芸道が、その要領を呑み込むことを「呼吸を知る」と言われているが、その体得は丹田による呼吸と吸氣の臨機の活用にあることと行動を説く鈴木正三、何れも、丹田呼吸の修練によつて鍊丹、養心を極めた師であろう。

あらゆる芸道が、その要領を呑み込むことを「呼吸を知る」と言われているが、その体得は丹田による呼吸と吸氣の臨機の活用にあることと行動を説く鈴木正三、何れも、丹田呼吸の修練によつて鍊丹、養心を極めた師であろう。



居合道大会の一コマ

然し乍ら正剣の理法を身につける日は、まだ先きのことであり、勇猛精進の一言につきる。求め続けられた、丹田呼吸が、読経が縁となり因となつて感得した喜びは格別であり、ぞくぞくするような思いが込み上げてきたものであつた。

筆を擱くに当つて、直心影流継承者の大森曹玄老師の「剣と禪」よりかりて、「生を明らめ死を明らめるは剣者一大事の因縁」なり。

（筆者）剣道教士 七段 唱 合

スポーツは私の人生だつた

渡辺 正芳 氏 遺文

剣道七段・銃剣道八段 故渡辺正芳氏略歴

昭和三年頃豊橋市立商業にスポーツ万能少年として活躍。その後鈴木房吉先生に剣を学んだ。名古屋の加藤七左工門、足立純三先生に激賞される程に成長する。後戸山学校陸軍銃剣術代表として全国優勝し、堀田徳次郎先生に見込まれて、女婿となる。昭和五十八年七月十八日死去

以下に掲載する文は氏自身の健在な昭和五十五年四月同窓会名簿に寄稿したものから剣道関係分を抜粋したものであります。

（編集部）

はじめに

（著者）

柴田正二

早や主人が亡くなりまして半年の月日が経ちました。

主人の遺品を整理して居りましたところこんな手記を見付けました。

何事にも遠慮勝で、表へ出る事のきらいな主人は、私も子供達にも自分の過去の栄光の話などすることはありませんでした。私も子供も、主人の事について

はあまり知らず、唯剣道が大好きで少し位身体の具合が悪くても剣道をすれば元気になつてしまふ人だと位にしか思つて居りませんでした。この際子供達にも見せて、父の事を知つてもらひ度いと思い、廻し読みしていくうちに、一寸した紙に走り書きしてあつた為、ボロボロになつてしまひました。形が無くなつてはと思ひ、この様な小説に致した次第です。主人の意に副わないのではないかと思いつつ……。

やさしく思いやりが有り礼儀正しく誠実で、曲つた事づるい事のきらいな、人を押しのけてまで前へ出る事の出来なかつた主人の思い出の記録として、又残された私共家族の心の糧として、幼い孫達にも彼の精進・努力の足跡を伝えようと思います。

スポーツの素質をグングンと手繕り出してくれた結果だとと思う。もともと走ることは早かつた。いつ頃から早かつたかは今では判らないが、自分が早いのを父は「早く走ることは人間車夫のやることだ」と云つて余り喜こんでくれなかつた。

兄は豊橋中学校で剣道と野球（投手）の選手をやつていた。両方共よい方で特に剣道は優れていた。私はよく兄が球を投げる時捕手をやらされた。自然に捕球の動作は上手になつた。四年生が終り、五年生になつた。四年生が終り、五年生になつて動機は判らないが野球の選手を希望した。これも兄の指し金ではなかつた。自然に捕球の動作は上手になつた。学校でも腕白小僧で暴れ廻つた。

私は五・六年生を野球一筋に送つた。学校でも腕白小僧で暴れ廻つた。私は鳥居有りと県下に知られた。父も亦剣道が大好きであった。こんな関係で自分も豊商に入つたら剣道をやるんだと腹に決めていた。

（1）豊商剣道部に入る

渡辺 トヨ

昭和五十八年十二月一日

〔一〕 小学生時代

私は小学校三年生位迄は余り体は頑健な方ではなかつた。兄と私とは七つ違つた。何故「スポーツは私の人生であつた」と言う迄にスポーツが得意であったかは、兄が私の

豊橋市立商業学校に入学出来てこ

れが縁で豊商の剣道の黄金時代の出現があるとは、誰が予想したでしょうか。私の家は兄が豊中の剣道の黄金時代を造り、四中（豊中のこと）に鳥居有りと県下に知られた。父も亦剣道が大好きであった。こんな関係で自分も豊商に入つたら剣道をや

豊商の剣道部の先生は、鈴木房吉先生であった。兄も充分知っていた。右武学院を通じての剣友否先輩であった。

(2) 剣道部で早くも頭角を現わす

私は一年生二年生と進むに従つてその運動神経が現われて來た。早くも学年では一位か二位になつた。

武道大会には学年で優勝する様になつた。前に兄が豊橋市の招魂祭の輪転試合で一位になり日本刀をもらつた時の父の嬉び様はなかつた。

余談だが、私と兄とは七つ年が違つていたのだが、よく奥の八畳の間で柔道の押え込みの様なことをして遊んだ。学年でも体格は大きな方であつた私は、兄の押え込みをどうやつて跳ね除けようかと大いに必死になつたものだ。こんな遊びが自分の体力を益々強力なものにしたと思う。

(3) 遂に剣道の選手となる。

「初陣は中堅手」

三年生の夏、我々剣道の選手にとっては大変楽しい事があった。京都武徳会本部主催の剣道大会に参加することである。夏休みに入つて間もなく、たぶん七月二十二日頃であつたと思う。

昭和七年一月十日星一ヶの新兵として歩一八連隊に入隊した。私は同年兵より二歳年下ながら頑健な体格のお陰で、一ヶ班の先頭に立つて活躍した。如何なる激務にも参らなかつた。

昭和七年一月十日星一ヶの新兵として歩一八連隊に入隊した。私は同年兵より二歳年下ながら頑健な体格のお陰で、一ヶ班の先頭に立つて活躍した。如何なる激務にも参らなかつた。

昭和七年一月十日星一ヶの新兵として歩一八連隊に入隊した。私は同年兵より二歳年下ながら頑健な体格のお陰で、一ヶ班の先頭に立つて活躍した。如何なる激務にも参らなかつた。

昭和七年一月十日星一ヶの新兵として歩一八連隊に入隊した。私は同年兵より二歳年下ながら頑健な体格のお陰で、一ヶ班の先頭に立つて活躍した。如何なる激務にも参らなかつた。

昭和七年一月十日星一ヶの新兵として歩一八連隊に入隊した。私は同年兵より二歳年下ながら頑健な体格のお陰で、一ヶ班の先頭に立つて活躍した。如何なる激務にも参らなかつた。

（四）陸軍戸山学校に入校剣道（主として銃剣術）体操に専念一年

（1）長期学生を狙う

戸山学校の学生体験のある先輩峯田軍曹が、「君なら長期学生になれる太鼓判を押す」と言つてくれた。長期学生に残らなければ助教にもなれることは判つていた。

大いに頑張るぞ連隊のためにもと決心して昭和十年一月十日満州佳木斯から入校した。

(2) 惜しいかな恩賜時計を逸す

私は三年生で中堅であつた。初陣に中堅とは、私を高く買つてくれたものである。

大会の成績はトントンと勝ち進ん

だが、五回戦迄行き破れた。参加校二百五十五校中十六校の中に入り、

学校の表彰規定により表彰を受けた。

（4）運動会で五種競技に一位

当時の市長田部井さん寄贈のカツ

プと金メダルが運動会の五種競技の優勝者に授与されると云うことであつた。

陸上競技部の選手は他の者に渡すものかと大いに練習したが、その結果は自分が若冠三年生で然も剣道部の選手が優勝したので競技部は大変残念がつた。実力の示すところ大いに優勝したので、この様なことがあつて三年生の鳥居の名は全校誰一人知らぬ者はなくなつた。

昭和五十五年一月病院で見識らぬ人から、「あんた鳥居さんだね」と云われて「失礼ですがどちらさんは豊商ですか」と尋ねたら、豊商一回生だとこのことで私はびっくりした。「よく私が判りましたね」と言うと、「あんたの様なスポーツマンは

覚えているよ」と言われた。もう別れて五十年にもなるのに……

（5）四年生で大将になり各所で優勝す

四年生になつて選手の五人は、四年生になつたころには、大将の名が五年生、自分一人四年生であつた。二回位先峰で出場したがその後は大将が多かつた。静岡高等学校主催東海中等学校剣道大会に優勝したのが最初であった。又豊橋招魂祭有

段者輪転試合で、十五人抜きを果し日本刀一振をいたいた。兄が一度もらつたとき自分も「おれももらうぞ」と小さい時決心したことがあるが、今実現したのだ。

（6）「市商に鳥居有り」

京都、大阪大会に三位

五年生になつたころには、大将のポジションは定着していた。『市商に鳥居有り』と県下で知られる様になつた。県下の大会には優勝か準優勝が当然と迄になつて來た。

特筆すべきは、京都武徳会本部主催の大会で参加二八五校中準決勝で兵庫工業学校と対戦、破れて三位の成績となつた。この時のチームは五名中五年生三名、鈴木清夫、近藤武彦両氏と共に五年生が活躍した。

この成績は県下或いは東海地区でも獲得しがたい成績であつた。

又、翌日は大阪学生連盟主催の大會があつてこれにも出場した。参加校は八十校位だつたと思うが相当自信のある学校ばかりである。三本勝負の勝残り試合で一寸珍らしい試合方法であつた。三回戦から次鋒或いは中堅から大将の私が戦わねばならない状態が続いた。私は大奮斗して負けられた。三本勝負勝ち進み、準決勝迄進んだ。

大将迄負かさねばならない。昨日の奮斗さらに本日の大奮斗と超人的活躍であつた。だが体力には限界がある。準決勝戦で中堅、副将と倒したが、遂に大将に破れてしまった。

相手は福岡中学であつた。

昨日から今日にかけての市商の大奮斗で、『愛知の市商』の名は一躍全国的なととなり、この成績は私の豊商時代の最高の思い出である。

又、陸上競技の方もアルバイト選手として練習もしないでよく出場していた。百米は十二秒ばかりであった。百米は十二秒ばかりであった。こんどの運動会には是非十秒台にしたいと思い、一週間程練習した。お陰で十一秒七のタイムを記録したのもこの年であった。

私は現役志願（令七適要）で下士志願して陸軍戸山学校剣術科助教に

相手は福岡中学であつた。

昨日から今日にかけての市商の大奮斗で、『愛知の市商』の名は一躍全国的なととなり、この成績は私の豊商時代の最高の思い出である。

又、陸上競技の方もアルバイト選手として練習もしないでよく出場していた。百米は十二秒ばかりであった。百米は十二秒ばかりであった。こんどの運動会には是非十秒台にしたいと思い、一週間程練習した。お陰で十一秒七のタイムを記録したのもこの年であった。

私は現役志願（令七適要）で下士志願して陸軍戸山学校剣術科助教に

（2）剣道大会の銃剣術で先輩助教四人を勝ち抜き「一位」

（3）剣術科職員の猛練磨「一本試合が十本試合に先ず銃剣術の模様を述べよう。

（4）長期学生で成績一位

（5）陸軍戸山学校剣術科助教時代

（6）陸軍戸山学校剣術科の助教になつて先ず目的の第一歩に踏み入れた。恵まれた素質・体格・運動神経を充分に駆使して伸びて行ったことの根本をなすものは、速い疾走力、強靭な腰の力等であった。

（1）新参助教の日本一の仮標刺突

（2）新参助教の日本一の仮標刺突

（3）新参助教の日本一の仮標刺突

（4）新参助教の日本一の仮標刺突

（5）新参助教の日本一の仮標刺突

（6）新参助教の日本一の仮標刺突

（7）新参助教の日本一の仮標刺突

（8）新参助教の日本一の仮標刺突

（9）新参助教の日本一の仮標刺突

（10）新参助教の日本一の仮標刺突

又学生教育でも、一月の入校生も五月頃になれば第二教習と云う最も猛烈な稽古になり、助教は学生を十人、五名相手にする。

終ると木銃を持つて立っているとポトポト汗が手足をつたわって床に落ち、周囲は水をまいた様に濡れ、着ている体操ズボンは濡れないところはないところはないという状態でした。

次に剣道の職員練磨を紹介しよう。

月曜日の午前は天覧道場で行われたが、この練磨には多くの剣道家が東京都下で最も良い練磨場所であることを知つていて教士、鍊士等多数来場した。

先生は持田、齊村、大島、伊藤、江口、各範士、戸山の職員はこの中に入つて大いに修業した。

たまたま前述の大先生が稽古せず立つていると、今稽古を終つて帰つて来たばかりでも、引続いて掛つて行かないと剣術科長に怒られた。

稽古が終りに近づいて道場が一寸空いてくると、今度は助教が掛け稽古で天覧道場を縦横無尽に打つて飛び廻わつた。はずされると、東に西に南に北にとふつ飛んで行つた。ホントに「鍊つて、鍊つて」と言う言葉がピッタリであつた。

[八] 皇紀二千六百年奉祝大会 昭和十五年五月皇紀二千六百年奉祝記念剣道大会に愛知県代表となり宮中斎寧館で行われる試合に各都道府県代表の一員として出場しました。

私は軍刀術の中根少尉との剣術の優勝戦に臨んだ。そして勝ち、日本刀一振りをいただいた。

[九] 終戦を迎う 遂に敗戦追放浪人となり、剣道も追放されました。

私は七年間の開拓生活の後、豊栄百貨店に入社し、十八年すぎました。

その間再び剣道が許可せられ、昭和二十八年に堀田、鷺津、鳥居先生の追悼大会が開かれました。

私は豊橋代表チームの大将として出場、優勝戦で名古屋チームと対戦し、大接戦で勝ち、優勝しました。又この年、幡豆の平坂町主催竹刀競

こんな稽古をし、又学生の指導をしても夜は、学校外の剣道場に、稽古に行つた。

[六] 陸海軍の世紀の大試合

昭和十四年十一月明治神宮体育大会に於いて銃剣術の准士官下士官の部で準決勝戦に海軍二人、陸軍二人が残つた。抽選の結果同士打ちとなり、優勝戦は陸海の対戦という世纪の大試合となつた。

銃剣術は陸軍が本家であるが、海軍も前々から打倒陸軍を掲げて、大に研究努力していた。

かくして準優勝戦は自分と先輩の岡林助教とで試合することになり、私が勝つて陸軍の代表となつた。

(試合前に作道助長に聞きに行つた岡林先輩を突いてもよいかどうか)と、返事は「試合に何も遠慮することはない、思い切つてやるべきだ」と)

一方、海軍の代表は鍊士五段原田一曹である。海軍も優秀者を二、三名戸山学校に派遣して、五ヶ月間一般学生と一緒に訓練させていた。

原田一曹もその一人で岡林先輩も彼をよく識つていた。仲々の強者であり、彼も海軍を代表する者、私も陸軍を代表する者、この試合で勝て

ば、日本一であり、又陸軍の面目を保つことになる。

海軍が勝てば打倒戸山の悲願も達成された。愈々試合は山内中佐(剣術課長)が残つた。抽選の結果同士打ちとなつた。

かくして準優勝戦は自分と先輩の岡林助教とで試合することになり、私が勝つて陸軍の代表となつた。

(試合前に作道助長に聞きに行つた岡林先輩を突いてもよいかどうか)と、返事は「試合に何も遠慮することはない、思い切つてやるべきだ」と)

一方、海軍の代表は鍊士五段原田一曹である。海軍も優秀者を二、三名戸山学校に派遣して、五ヶ月間一般学生と一緒に訓練させていた。

岡林先輩を押しのけて進出して来た私である、敗けられない。数合戦つたが決らず、私がぐんぐん相手を試合場の偶の方に攻め立て思い切つて脱突を突いた。

誠に美事な刺突であつた。彼の上体がのけ反る位充分な刺突であつた。

勿論審判員の手が挙つた。(当時の海軍チームの一員であった鎌田三曹が四十年後にこのときの状況を書いてよこした手紙の一節を紹介します。

長いスポーツ人生、その歩んで来た足跡を振りかえると、黄金時代を作り、又その導火線にもなり、幾多の輝やかしい成績を残してきた。

現在は家内が身体障害で、充分な活動も出来ずいろいろ辞退することが多くなつた。

スポートに役職に活躍するには、家族構成に経済的に余裕がなかつたが、これ迄やつてきたスポーツも年と共に必要がなくなり、段々退化してきた。

豊栄百貨店時代職業野球大会があり、自分も野球歴を買わせて四番バッターで出場し優勝した。

その時打撃賞をもらつてまだ老い

ずと思ったが、今ではさっぱりである。

これも二十年前のことである。

「暫時かけひきの揚句、原田一曹が観衆の目が覚めてもまだ足りない意味は前述の説明で充分にお判りとと思う。戸山学校は特に嬉んでくれた。山内課長も手ばなしで嬉んでくれた、文句のない美事な脱突であった。

正芳大先生であつたと言うことがわかり……」

その当時、私は鳥居でした。遂に勝つた。

個人の喜びだけではなく、そのとしたらと思うと、全く私も一生忘れることの出来ない大試合であった。

岡林先輩曰く「おれでは勝ち目がない、お前が出た方がよかつたよ」と。だがどちらが出ても兎に角勝たなければならぬ運命の大試合であった。

反対に私が突かれた立場になつた。

としたらと思うと、全く私も一生忘れることの出来ない大試合であった。

岡林先輩曰く「おれでは勝ち目がない、お前が出た方がよかつたよ」と。だがどちらが出ても兎に角勝たなければならぬ運命の大試合であった。

反対に私が突かれた立場になつた。

としたらと思うと、全く私も一生忘れることの出来ない大試合であった。

岡林先輩曰く「おれでは勝ち目がない、お前が出た方がよかつたよ」と。だがどちらが出ても兎に角勝たなければならぬ運命の大試合であった。

翌年の留守第三師団の剣道大会で

[七] 豊橋歩兵第十八連隊に帰る

昭和十四年十二月、歩兵第十八連隊補充隊に帰り、連隊の銃剣術の強化に努力した。

私は運よく、連隊旗手として連隊長と参内して天皇陛下から軍旗を授けられたことがある。一少尉では又連隊旗手でも新設連隊でなければ出来ないことであることを附記します。

スポーツは私の人生、に關係のない事ですが、こんな名誉のことはなかなかないことですから、附け加えて、私のスポーツ人生の筆を置きました。

私は少尉のとき新設歩兵連隊の連隊旗手を命ぜられたことがあります。

私は運よく、連隊旗手として連隊長と参内して天皇陛下から軍旗を授けられたことがある。一少尉では又連隊旗手でも新設連隊でなければ出来ないことであることを附記します。

私は運よく、連隊旗手として連隊長と参内して天皇陛下から軍旗を授けられたことがある。一少尉では又連隊旗手でも新設連隊でなければ出来ないことであることを附記します。

私は運よく、連隊旗手として連隊長と参内して天皇陛下から軍旗を授けられたことがある。一少尉では又連隊旗手でも新設連隊でなければ出来ないことであることを附記します。

私は運よく、連隊旗手として連隊長と参内して天皇陛下から軍旗を授けられたことがある。一少尉では又連隊旗手でも新設連隊でなければ出来ないことであることを附記します。

私は運よく、連隊旗手として連隊長と参内して天皇陛下から軍旗を授けられたことがある。一少尉では又連隊旗手でも新設連隊でなければ出来うことであることを附記します。

私の剣道

教士七段 桜田章夫(自営)



私は中京商業高等学校（現在の中京高等学校）へ入学と同時に近藤利雄範士、今は亡き高橋才次郎先生、そして、専任師範として、一心寺の前田治雄先生に竹刀の振り方から教えて頂いたのが剣道との出会いです。

（現金沢大学助教授）が高校界では大スターでした。

又中商（当時の中京商業高等学校の略）は近藤、恵土両氏に続き強い選手がそろっていたので、私はそうした環境の中で、しごかれしごかれて、二年生の新人戦の時、七連勝したのがきっかけで、益々剣道が好きになりました。

そして、三年生の時レギュラーに選ばれ、高校全国大会にも出場できて、益々自信をつけることになりました。

これからも剣道理念の教えている人間形成に少しでも近づくよう、努力、精進していく覚悟です。

第一回家庭婦人 剣道大会



第一回家庭婦人 剣道大会

剣道參段 古田扶三子
(中學教諭)

私が剣道と出会ったのは、今から丁度二十年前、中学校へ入学した時でした。そんな頃の私の通学した中学校では、体育館がまだなく、青空道場と言われるもので、運動場の一部を使っての練習でした。先輩方の

高校、大学と数々の試合に出場し、勝つたり負けたりしながらどうした
ら強くなれるだろうと練習に精を出し、悩んだ日々。大学二年の時全国大
会出場を目指し予選で中京大の選手に延長三回の末、敗れたくやしさ。東
海国公立大学の試合で決勝で涙をのんだことなど思い出に残っています。
二十三才で結婚し、まさか選手で大きな大会に出られるなんて夢にも思っていなかつただけに、昨年の第一回家庭婦人の全国大会出場は本当

年生の先輩がとても怖くて、身体の調子が悪くても「練習を休ませて下さい。」なんて言うこともできず、面の中でも泣いていたこともしばしばでした。

しかし、試合も何もない二年間で、男子相手の練習ばかりでしたが楽しいことも沢山ありました。寒稽古の後、ぜんざい等をこしらえて皆で食べたり、前年度県大会で優勝の先輩方の後を受け、今年もと、意気込んで蒲郡まで試合に行き負けてしまいで帰る途中皆で海水浴をしてきたこと等々……充実した毎日でした。

そんな三年間の後、高校、大学へと進み今日迄私が剣道を続けてこら

全国大会勝利の壁は厚く、予選で敗れはしたものの、家庭の主婦、いわば、結婚して子供を持つた多くの人達が余暇を利用して剣道の練習に励んでいるのだと思うと、何かとも心強いものを感じました。自分もまた練習してみよう、頑張ってみよう、結婚、出産と大きなブランクはあつたものの、今日まで剣道を続けてきて、よかつたなあ、と感じずにはいられませんでした。

教職について十一年、剣道で学んできたことが少しでも子供達に伝わっているのではないかと思つています。勝つことばかりにこだわる剣道ではなく、長く続けていく剣道を志すこと、又、心もみがいていかなければいけないことなど、いつも教えてくださった寺沢先生をはじめ、多

に嬉しいものでした。
県予選の日は丁度家の者が外出したため、子供を妹の家に預けての出場でした。車の中へ会場に向かう途中、信号が一度も赤にならず、スムーズに走れたことから「お母さん、試合勝てるかもね、がんばってね。」と言つてくれた一人息子の言葉を思い出し、試合に臨み、ベスト10に入れたことは本当に予期しなかつたこ

その前に名古屋で国際社会人剣道クラブのお仲間に入れて頂いていたので、大阪でもスムーズに国際社会人の稽古会にも参加でき、又その縁で小野派一刀流の長井長正先生（範士八段）に師事する機会を得、私の剣道人生に一転機をもたらすことになりました。

大阪での三年間は、長井範士から、みつちり小野派一刀流の形を教えて頂きました。（一刀流の形百二十有余本あります。）

又大阪は、大阪城内修道館に朝稽古会があり、日曜、祭日は、大阪刑務所道場の、西善延範士主宰の日曜会等に参加しました。

私のように夜七時八時まで仕事が終らない人間は、朝稽古、日曜会の稽古は大変勉強になりました。

先生方も、西、長井、岩橋、中沢各範士八段、奥園、賀来、古野、片岡、各教士八段、時には九州から、重岡範士九段がお見えになり、稽古をつけて頂きました。

今現在も大阪の仕事が週二日程ありますので、大阪へ出張した時は必ず、長井範士の道場へ通い、一刀流の形の稽古に参加するよう務めております。

最初は八段同志の稽古を見学し、それから私達が八段にかかる稽古方法です。

又私自身一刀流の理合を勉強させて頂いたことにより剣道がより一層楽しく稽古出来るようになりました。

名古屋へは五十九年九月に帰って参りまして、私の事業所が名古屋駅近くにある関係で、すぐ近くの三島記念館へ仕事を終えて夜八時頃から出入りさせて頂いていますし、又三島記念館の若手の先生方のご縁で名古屋市剣連理事長、加藤信雄先生の関連道場にも時々お世話になつて、何とか毎日十分でも二十分でも稽古が出来るよう努力しております。

これからも事業の傍ら、時間の許す限り稽古に精進し、更には今日まで会得したものを基に、これから剣道を始める青少年の方々の為に少しでもお役に立ちたいと考えています。

剣道の修業は辛いこと、苦しいことが多くありますが、そういう積み重ねの中にこそ「剣道即実生活」として己を愛し、家庭を愛し、隣人社会を愛していく心が芽生えてくるものと確信しています。

私の生活信条でもある「人の和と思いや」の心も、こうした剣道の稽古の餘念と日々感謝しているもの

その前に名古屋で国際社会人剣道クラブのお仲間に⼊れて頂いていたので、大阪でもスムーズに国際社会人の稽古会にも参加でき、又その縁で小野派一刀流の長井長正先生（範士八段）に師事する機会を得、私の剣道人生に一転機をもたらすことになりました。

大阪での三年間は、長井範士から、みつちり小野派一刀流の形を教えて頂きました。（一刀流の形百二十有余本あります。）

又大阪は、大阪城内修道館に朝稽古会があり、日曜、祭日は、大阪刑務所道場の、西善延範士主宰の日曜稽古は大変勉強になりました。

私のように夜七時八時まで仕事が終らない人間は、朝稽古、日曜会の稽古は大変勉強になりました。

先生方も、西、長井、岩橋、中沢各範士八段、奥園、賀来、古野、片岡、各教士八段、時には九州から、重岡範士九段がお見えになり、稽古をつけて頂きました。

今現在も大阪の仕事が週二日程ありますので、大阪へ出張した時は必ず、長井範士の道場へ通い、一刀流の形の稽古に参加するよう務めています。

しかし、試合も何もない三年間で、男子相手の練習ばかりでしたが楽しき調子が悪くても「練習を休ませて下さい。」なんて言うこともできず、面の中で泣いていたこともしばしばでした。

そんな三年間の後、高校、大学へと進み今日迄私が剣道を続けてこられたのは本当に良き師、先輩に恵まれたからです。

高校、大学と数々の試合に出場し、勝つたり負けたりしながらどうしたら強くなれるだろうと練習に精を出し、悩んだ日々。大学二年の時全国大会出場を目差し予選で中京大の選手に延長三回の末、敗れたくやしき。東海国公立大学の試合で決勝で涙をのんだことなど思い出に残っています。

二十三才で結婚し、まさか選手で大きな大会に出られるなんて夢にも思っていなかつただけに、昨年の第一回家庭婦人の全国大会出場は本当

最初は八段同志の稽古を見学し、そこで頂いたことにより剣道がより一層楽しく稽古出来るようになりました。名古屋へは五十九年九月に帰つて参りまして、私の事業所が名古屋駅近くにある関係で、すぐ近くの三島記念館へ仕事を終えて夜八時頃から出入りさせて頂いていますし、又三島記念館の若手の先生方のご縁で名古屋市剣連理事長、加藤信雄先生の関連道場にも時々お世話になつて、何とか毎日十分でも二十分でも稽古が出来るよう努力しております。

これからも事業の傍ら、時間の許す限り稽古に精進し、更には今日まで会得したものを基に、これから剣道を始める青少年の方々の為に少しでもお役に立ちたいと考えています。

剣道の修業は辛いこと、苦しいことが多くありますが、そういう積み重ねの中にこそ「剣道即実生活」として己を愛し、家庭を愛し、隣人社会を愛していく心が芽生えてくるものと確信しています。

私の生活信条でもある「人の和と思いやり」の心も、こうした剣道の稽古の経験と共に日々感動しているものです。

くの先生方に本当に感謝している次第です。

いつの日か、我が息子と面をかぶって練習できるのを楽しみに、また練習に励んでいきたいと思います。

去る八月二十一日、日本武道館において、「第一回全国家庭婦人剣道大会」が開催されました。

各都道府県代表の選手が、郷土の名譽をかけての出場です。今大会の出場資格は家庭婦人「既婚者」である事がメインでした。

私は、家庭に入り子供が産まれてから、ここ三年間と言うものの試合は勿論、練習もしていない状態であります。主人の勧めにより、予選大

会出場において、幸運にも念願の「全国家庭婦人剣道大会」出場を手中にし、なんとも言えない感激と汗でした。

そして、大会の前夜祭では名だたる強豪や、ベテラン選手の顔が視界に入るや、緊張の糸が張り詰める感じがしました。その反面学生時代の初日から、昼食も食べられない程思いました。

印象深いのは、夏休みにあった合宿です。入部してからずっと先輩に、「合宿つてもの凄くえらいんだよ。」などと聞かされていて、覚悟はしていましたが、午前の合同練習は、想像以上のハードトレーニングでした。初日から、昼食も食べられない程思いました。

二日目になると、「なんで私たちがこんな苦しい思いをしなければいけないの。」などと、ともだちと愚痴を言い合いました。でもみんな、途中で止めようなんて、少しも思つていませんでした。

しかし、次の日からは、体調がおかしくなって、一時、見学しました。みんなに悪いなあと、練習がさぼれて楽だなと複雑な気持ちでした。

午後からの稽古を見学しているとだんだんあせつてきて、自分が取り残されているような気分になりました。

やつと最後の二日の練習に出ました。みんなよりも、一生懸命やろうとしても、えらくて思う通りにはいませんでした。

ついに最終日、終る時間が近づくにつれて、かけ声が大きくなり、七

先輩、後輩の顔が見え昔の話に、花が咲き、今大会がなければなかなか会うことができない剣友の顔でした。

次の日、学生時代以来の日本武道館、またここで試合が出来ると言ううれしさと試合の不安とで、胸がドキドキしました。

第一回家庭婦人剣道大会

剣道四段 田中良子

(主婦)

去る八月二十一日、日本武道館において、「第一回全国家庭婦人剣道大会」が開催されました。

各都道府県代表の選手が、郷土の名譽をかけての出場です。今大会の出場資格は家庭婦人「既婚者」である事がメインでした。

私は、家庭に入り子供が産まれてから、ここ三年間と言うものの試合は勿論、練習もしていない状態であります。主人の勧めにより、予選大

会出場において、幸運にも念願の「全国家庭婦人剣道大会」出場を手中にし、なんとも言えない感激と汗でした。

そして、大会の前夜祭では名だたる強豪や、ベテラン選手の顔が視界に入るや、緊張の糸が張り詰める感じがしました。その反面学生時代の初日から、昼食も食べられない程思いました。

印象深いのは、夏休みにあった合宿です。入部してからずっと先輩に、「合宿つてもの凄くえらいんだよ。」などと聞かされていて、覚悟はしていましたが、午前の合同練習は、想像以上のハードトレーニングでした。初日から、昼食も食べられない程思いました。

二日目になると、「なんで私たちがこんな苦しい思いをしなければいけないの。」などと、ともだちと愚痴を言い合いました。でもみんな、途中で止めようなんて、少しも思つていませんでした。

しかし、次の日からは、体調がおかしくなって、一時、見学しました。みんなに悪いなあと、練習がさぼれて楽だなと複雑な気持ちでした。

午後からの稽古を見学しているとだんだんあせつてきて、自分が取り残されているような気分になりました。

やつと最後の二日の練習に出ました。みんなよりも、一生懸命やろうとしても、えらくて思う通りにはいませんでした。

ついに最終日、終る時間が近づくにつれて、かけ声が大きくなり、七

全力を尽くしました。

女子の大会が、男子に比べて少ないでの、今大会のような大会が開催されることにより、一般女性、又家庭婦人にとつて、剣道に対する目標のようなものが出来て来たと思います。

これからも女性の大会が多く開催されることを望みたいと思います。

最後に、貴重な体験をさせていただき、愛知県各剣道連盟の方々に、感謝すると共に、剣道修練に努力を重ねて行きたいと思います。

剣道と私

山口美樹

(昭和高校剣道部)

印象深いのは、夏休みにあった合宿です。入部してからずっと先輩に、「合宿つてもの凄くえらいんだよ。」などと聞かされていて、覚悟はしていましたが、午前の合同練習は、想像以上のハードトレーニングでした。初日から、昼食も食べられない程思いました。

二日目になると、「なんで私たちがこんな苦しい思いをしなければいけないの。」などと、ともだちと愚痴を言い合いました。でもみんな、途中で止めようなんて、少しも思つていませんでした。

しかし、次の日からは、体調がおかしくなって、一時、見学しました。みんなに悪いなあと、練習がさぼれて楽だなと複雑な気持ちでした。

午後からの稽古を見学しているとだんだんあせつてきて、自分が取り残されているような気分になりました。

やつと最後の二日の練習に出ました。みんなよりも、一生懸命やろうとしても、えらくて思う通りにはいませんでした。

ついに最終日、終る時間が近づくにつれて、かけ声が大きくなり、七

女子の大会が、男子に比べて少ないでの、今大会のような大会が開催されることにより、一般女性、又家庭婦人にとつて、剣道に対する目標のようなものが出来て来たと思います。

これからも女性の大会が多く開催されることを望みたいと思います。

最後に、貴重な体験をさせていただき、愛知県各剣道連盟の方々に、感謝すると共に、剣道修練に努力を重ねて行きたいと思います。

剣道と私

鈴木智美

(昭和高校剣道部)

印象深いのは、夏休みにあった合宿です。入部してからずっと先輩に、「合宿つてもの凄くえらいんだよ。」などと聞かされていて、覚悟はしていましたが、午前の合同練習は、想像以上のハードトレーニングでした。初日から、昼食も食べられない程思いました。

二日目になると、「なんで私たちがこんな苦しい思いをしなければいけないの。」などと、ともだちと愚痴を言い合いました。でもみんな、途中で止めようなんて、少しも思つていませんでした。

しかし、次の日からは、体調がおかしくなって、一時、見学しました。みんなに悪いなあと、練習がさぼれて楽だなと複雰な気持ちでした。

午後からの稽古を見学しているとだんだんあせつてきて、自分が取り残されているような気分になりました。

やつと最後の二日の練習に出ました。みんなよりも、一生懸命やろうとしても、えらくて思う通りにはいませんでした。

ついに最終日、終る時間が近づくにつれて、かけ声が大きくなり、七

女子の大会が、男子に比べて少ないでの、今大会のような大会が開催されることにより、一般女性、又家庭婦人にとつて、剣道に対する目標のようなものが出来て来たと思います。

これからも女性の大会が多く開催されることを望みたいと思います。

最後に、貴重な体験をさせていただき、愛知県各剣道連盟の方々に、感謝すると共に、剣道修練に努力を重ねて行きたいと思います。

剣道と私

鈴木智美

(昭和高校剣道部)

印象深いのは、夏休みにあった合宿です。入部してからずっと先輩に、「合宿つてもの凄くえらいんだよ。」などと聞かされていて、覚悟はしていましたが、午前の合同練習は、想像以上のハードトレーニングでした。初日から、昼食も食べられない程思いました。

二日目になると、「なんで私たちがこんな苦しい思いをしなければいけないの。」などと、ともだちと愚痴を言い合いました。でもみんな、途中で止めようなんて、少しも思つていませんでした。

しかし、次の日からは、体調がおかしくなって、一時、見学しました。みんなに悪いなあと、練習がさぼれて楽だなと複雰な気持ちでした。

午後からの稽古を見学しているとだんだんあせつてきて、自分が取り残されているような気分になりました。

やつと最後の二日の練習に出ました。みんなよりも、一生懸命やろうとしても、えらくて思う通りにはいませんでした。

ついに最終日、終る時間が近づくにつれて、かけ声が大きくなり、七

女子の大会が、男子に比べて少ないでの、今大会のような大会が開催されることにより、一般女性、又家庭婦人にとつて、剣道に対する目標のようなものが出来て来たと思います。

これからも女性の大会が多く開催されることを望みたいと思います。

最後に、貴重な体験をさせていただき、愛知県各剣道連盟の方々に、感謝すると共に、剣道修練に努力を重ねて行きたいと思います。

第十七回都市別対抗大会

六月二十四日九時より一宮勤労福

祉会館にて役員、選手(十七チーム)

二位稻沢地区、三位海部南部地区

に於て、男子七十五校、女子六十四

校が参加、一位男子岩倉南中、女子

扶桑中

第十四回高校夏季大会

七月十五日九時より一宮高校体育

館に於て、男子四十一校、女子三十

六校が参加、一位男子一宮南高、女

子小牧高

第三回明治村少年鍊成大会

八月二十日より三日間、十時より

十二時迄無声堂にて、小学生の鍊成。

二十日は一宮、木曽川、犬山、岩

倉、稻沢地区、二十一日は、江南、岩

西春日井、小牧、春日井地区二十二

日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島

の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、

日置、中村の各講師の指導のもとに

三日間の鍊成大会を有意義に終る。

期間中の参加者は、述べ講師十五

名、付き添い指導員三十二名、小学生

(男女)一四五名、付き添い父兄一〇

四名、付き添い子供十四名、合計二

九五名

| 期日、場所 | 合計 | 段 | | | 受験者 | 合格者 |
|-------------------|-----|----|----|----|-----|-----|
| | | 初 | 二 | 三 | | |
| 八月二十六日瀬戸市体育館 | 五九二 | 一八 | 九六 | 二二 | 四七八 | 一五七 |
| 西春日井、小牧、春日井地区二十二 | 一八八 | 一八 | 九七 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島 | 一八八 | 一八 | 九八 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日置、中村の各講師の指導のもとに | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 三日間の鍊成大会を有意義に終る。 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 期間中の参加者は、述べ講師十五 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 名、付き添い指導員三十二名、小学生 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| (男女)一四五名、付き添い父兄一〇 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 四名、付き添い子供十四名、合計二 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 九五名 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |

十二時迄無声堂にて、小学生の鍊成。

二十日は一宮、木曽川、犬山、岩

倉、稻沢地区、二十一日は、江南、岩

西春日井、小牧、春日井地区二十二

日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島

の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、

日置、中村の各講師の指導のもとに

三日間の鍊成大会を有意義に終る。

期間中の参加者は、述べ講師十五

名、付き添い指導員三十二名、小学生

(男女)一四五名、付き添い父兄一〇

四名、付き添い子供十四名、合計二

九五名

| 期日、場所 | 合計 | 段 | | | 受験者 | 合格者 |
|-------------------|-----|----|----|----|-----|-----|
| | | 初 | 二 | 三 | | |
| 八月二十六日瀬戸市体育館 | 五九二 | 一八 | 九六 | 二二 | 四七八 | 一五七 |
| 西春日井、小牧、春日井地区二十二 | 一八八 | 一八 | 九七 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日置、中村の各講師の指導のもとに | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 三日間の鍊成大会を有意義に終る。 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 期間中の参加者は、述べ講師十五 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 名、付き添い指導員三十二名、小学生 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| (男女)一四五名、付き添い父兄一〇 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 四名、付き添い子供十四名、合計二 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 九五名 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |

十二時迄無声堂にて、小学生の鍊成。

二十日は一宮、木曽川、犬山、岩

倉、稻沢地区、二十一日は、江南、岩

西春日井、小牧、春日井地区二十二

日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島

の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、

日置、中村の各講師の指導のもとに

三日間の鍊成大会を有意義に終る。

期間中の参加者は、述べ講師十五

名、付き添い指導員三十二名、小学生

(男女)一四五名、付き添い父兄一〇

四名、付き添い子供十四名、合計二

九五名

| 期日、場所 | 合計 | 段 | | | 受験者 | 合格者 |
|-------------------|-----|----|----|----|-----|-----|
| | | 初 | 二 | 三 | | |
| 八月二十六日瀬戸市体育館 | 五九二 | 一八 | 九六 | 二二 | 四七八 | 一五七 |
| 西春日井、小牧、春日井地区二十二 | 一八八 | 一八 | 九七 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日置、中村の各講師の指導のもとに | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 三日間の鍊成大会を有意義に終る。 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 期間中の参加者は、述べ講師十五 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 名、付き添い指導員三十二名、小学生 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| (男女)一四五名、付き添い父兄一〇 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 四名、付き添い子供十四名、合計二 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 九五名 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |

十二時迄無声堂にて、小学生の鍊成。

二十日は一宮、木曽川、犬山、岩

倉、稻沢地区、二十一日は、江南、岩

西春日井、小牧、春日井地区二十二

日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島

の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、

日置、中村の各講師の指導のもとに

三日間の鍊成大会を有意義に終る。

期間中の参加者は、述べ講師十五

名、付き添い指導員三十二名、小学生

(男女)一四五名、付き添い父兄一〇

四名、付き添い子供十四名、合計二

九五名

| 期日、場所 | 合計 | 段 | | | 受験者 | 合格者 |
|-------------------|-----|----|----|----|-----|-----|
| | | 初 | 二 | 三 | | |
| 八月二十六日瀬戸市体育館 | 五九二 | 一八 | 九六 | 二二 | 四七八 | 一五七 |
| 西春日井、小牧、春日井地区二十二 | 一八八 | 一八 | 九七 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 日置、中村の各講師の指導のもとに | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 三日間の鍊成大会を有意義に終る。 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 期間中の参加者は、述べ講師十五 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 名、付き添い指導員三十二名、小学生 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| (男女)一四五名、付き添い父兄一〇 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 四名、付き添い子供十四名、合計二 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |
| 九五名 | 一八八 | 一八 | 九九 | 二七 | 二七 | 一五七 |

十二時迄無声堂にて、小学生の鍊成。

二十日は一宮、木曽川、犬山、岩

倉、稻沢地区、二十一日は、江南、岩

西春日井、小牧、春日井地区二十二

日は瀬戸、尾張旭、海部南部、津島

の各地区が参加、谷、船橋、広瀬、

日置、中村の各講師の指導のもとに

三日間の鍊成大会を有意義に終る。

期間中の参加者は、述べ講師十五

名、付き添い指導員三十二名、小学生

(男女)一四五名、付き添い父兄一〇

四名、付き添い子供十四名、合計二

九五名

| 期日、場所 | 合計 | 段 | | | 受験者 | 合格者 |
|--------------|-----|------|---|---|-----|-----|
| | | 初 | 二 | 三 | | |
| 八月二十六日瀬戸市体育館 | 五九二 | 一八</ | | | | |

大会要項

二三

- 尾南寒技審查會 大府

- 名古屋実技審査会
露橋 九時

- 二十七日 県審判・形伝達講習会
県スポーツ会館 十時

- 東海市体育館
十一時
二十一～二十三日 国民体育大会

- 海部南 小牧
尾南少年指導者講習会

- 二十日 尾南形講習及審查会 大府
尾張形講習及審查会

- 十三日 露橋 安坂
名古屋形審査会

- 十日
安哉
査会 岐ス。ポーツ会館 十時
西三河少年指導者講習会

- 六日 全日本居合道大会 沖縄
剣道五段以上講習及称号審

- 二十九日 西三江形語ノ書立
十月 刘谷

- 二十三日 東三河少年指導者講習会
蒲郡武道館

- 露橋 尾張少年指導者講習会 十時

- 二十二日 東西対抗剣道大会 埼玉
居合道講習及び審査会

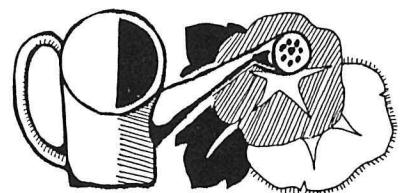
- 露橋 九時 愛知県女子選手権大会

武杯争奪
剣道大会

★第八回 壱制定

★ 第一回家庭婦人県大会

- 1、期日 昭和六十年六月二十二日(日) 九時三十分
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 個人戦
- 5、試合方法 未定
- 既婚の家庭婦人であること。
- 全国大会出場選手選考を兼ねる。
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、申込期日 昭和六十年八月十日(土)
- 8、申込期日 昭和六十年六月八日(土)
- (含傷害保険料・申し込みと同時納入)
- 9、参加料 一人 五〇〇円



★ 第一七回春季少年剣道大会

- 小学生の部
- 1、期日 昭和六十年三月三十日(日) 九時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 県連登録団体であること。
- 引率責任者が同行出来ること。
- 地区選抜数 一・二年生の部は検討中 三年生の部六四名
- 名古屋一三名 尾張一七名 西三河一七名 東三河九名 尾南八名
- 四年生・六年生の部一二八名
- 名古屋二六名 尾張三四名 西三河三四名 東三河一九名 尾南一六名
- 5、競技種別 学年別個人戦
- 6、試合方法 試合と試合
- 7、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 8、参加料 一人 三〇〇円
(中止の場合返金しない)
- 9、申込期日 昭和六十年十月十五日(火)

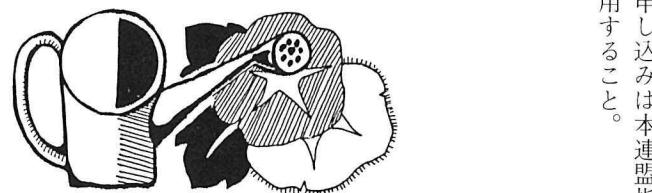
- 以上の大会は、全日本剣道連盟試合並びに審判規則による。
- 各大会の申し込みは本連盟指定の用紙を使用すること。
- 1、審査会・実施日 昭和六十一年三月十日(月)
- 2、申込資格 (1)本連盟会員で終身会費納入済者
(2)実技審査は、形合格者で次の条件に適うもの
- 3、段位及び形審査会
- | 段級別 | 5段 | 4段 | 3段 | 2段 | 初段 | 段位 | 修業年限 | 年令・その他 |
|------|------|-------|--------|--------|------|-------|-------|--------|
| 8~2級 | 3年以上 | 4段受有後 | 2年以上 | 3段受有後 | 1年以上 | 2段受有後 | 3ヶ月以上 | 1級受有後 |
| 1級 | | | | | | | | 1級受有者 |
| 初段 | 500円 | 700円 | 900円 | 1,600円 | | | | |
| 2段 | 600円 | 700円 | 1,000円 | 1,800円 | | | | |
| 3段 | 700円 | 700円 | 1,600円 | 2,800円 | | | | |
| 4段 | 800円 | 700円 | 2,000円 | 3,500円 | | | | |
| 5段 | 800円 | 700円 | 2,800円 | 5,600円 | | | | |

以上の受験者は修業年限の制度が厳格ですので前段合格日を正確に記入すること。前段合格日が不明確な場合は、合格しても全日本剣道連盟より「取消」とされてしまいます。前段合格日は証状の日付を記入すること。

4、審査料及び登録料

1級受験に際し愛知県剣道連盟入会金として終身会費5,000円を納めなければなりません。

- 1、期日 昭和六十年六月二十二日(日) 九時三十分
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 個人戦
- 5、試合方法 未定
- 既婚の家庭婦人であること。
- 全国大会出場選手選考を兼ねる。
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、申込期日 昭和六十年八月十日(土)
- 8、申込期日 昭和六十年六月八日(土)
- (含傷害保険料・申し込みと同時納入)
- 9、参加料 一人 五〇〇円



★ 第一五回居合道段別選手権大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十年八月二十五日(日) 三時三十分
- 2、会場 邦和スポーツランド
- 3、参加資格 引率責任者が同行出来ること。
- 予選選抜者
- 4、競技種別 個人戦
- 5、試合方法 全日本国剣道連盟制定居合五本、ただし、指定する三本は最後にいれる。または、制定居合三本と古流居合一本。
- トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十年九月八日(日) 十時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 女子、段外、初段から五段までの各段別、ただし参段以上の女子は男子といっしょに行なう。
- 5、試合方法 全日本国剣道連盟制定居合五本、ただし、指定する三本を入れる。指定する三本は最後にいれる。または、制定居合三本と古流居合一本。
- トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十年九月十六日(日) 九時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 初段から五段までの各段別
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円
- 8、申込期日 昭和六十年八月三十日(土)
- (含傷害保険料・申し込みと同時納入)

- 1、期日 昭和六十年九月七日(土) 十三時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であり、剣道六段以上の者
- 4、競技種別 段級制限無
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円



★ 第一七回夏季少年剣道大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十年八月二十五日(日) 三時三十分
- 2、会場 邦和スポーツランド
- 3、参加資格 引率責任者が同行出来ること。
- 予選選抜者
- 4、競技種別 個人戦
- 5、試合方法 全日本国剣道連盟制定居合五本、ただし、指定する三本を入れる。指定する三本は最後にいれる。または、制定居合三本と古流居合一本。
- トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十年九月十六日(日) 九時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 初段から五段までの各段別
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円
- 8、申込期日 昭和六十年八月三十日(土)
- (含傷害保険料・申し込みと同時納入)

- 1、期日 昭和六十年九月十六日(日) 九時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であることを。
- 4、競技種別 段級制限無
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円



★ 第一八回愛知県段別選手権大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十年九月十六日(日) 九時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 初段から五段までの各段別
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円
- 8、申込期日 昭和六十年八月三十日(土)
- (含傷害保険料・申し込みと同時納入)

- 1、期日 昭和六十年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円



★ 第一回成田山奉納剣道大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十一年三月三十日(日) 九時
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 県連登録団体であること。
- 引率責任者が同行出来ること。
- 地区選抜数 一・二年生の部は検討中 三年生の部六四名
- 名古屋一三名 尾張一七名 西三河一七名 東三河九名 尾南八名
- 四年生・六年生の部一二八名
- 名古屋二六名 尾張三四名 西三河三四名 東三河一九名 尾南一六名
- 5、競技種別 学年別個人戦
- 6、試合方法 試合と試合
- 7、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 8、参加料 一人 三〇〇円
(中止の場合返金しない)
- 9、申込期日 昭和六十一年三月十日(月)

- 以上の大会は、全日本剣道連盟試合並びに審判規則による。
- 各大会の申し込みは本連盟指定の用紙を使用すること。
- 1、審査会・実施日 昭和六十一年三月十日(月)
- 2、申込資格 (1)本連盟会員で終身会費納入済者
(2)実技審査は、形合格者で次の条件に適うもの
- 3、段位及び形審査会
- | 段級別 | 5段 | 4段 | 3段 | 2段 | 初段 | 段位 | 修業年限 | 年令・その他 |
|------|------|-------|--------|--------|------|-------|-------|--------|
| 8~2級 | 3年以上 | 4段受有後 | 2年以上 | 3段受有後 | 1年以上 | 2段受有後 | 3ヶ月以上 | 1級受有後 |
| 1級 | | | | | | | | 1級受有者 |
| 初段 | 500円 | 700円 | 900円 | 1,600円 | | | | |
| 2段 | 600円 | 700円 | 1,000円 | 1,800円 | | | | |
| 3段 | 700円 | 700円 | 1,600円 | 2,800円 | | | | |
| 4段 | 800円 | 700円 | 2,000円 | 3,500円 | | | | |
| 5段 | 800円 | 700円 | 2,800円 | 5,600円 | | | | |

- 以上の受験者は修業年限の制度が厳格ですので前段合格日を正確に記入すること。前段合格日が不明確な場合は、合格しても全日本剣道連盟より「取消」とされてしまします。前段合格日は証状の日付を記入すること。
- 4、審査料及び登録料
- 1級受験に際し愛知県剣道連盟入会金として終身会費5,000円を納めなければなりません。



★ 第一六回愛知県女子選手権大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十一年九月三十日(土)
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 段級制限無
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十一年九月三十日(土)
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であることを。
- 4、競技種別 段級制限無
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十一年九月三十日(土)
- 2、会場 露橋スポーツセンター
- 3、参加資格 本連盟会員であること。
- 4、競技種別 段級制限無
- 5、試合方法 トーナメント方式
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円



★ 第一回成田山奉納剣道大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 以上の受験者は修業年限の制度が厳格ですので前段合格日を正確に記入すること。前段合格日が不明確な場合は、合格しても全日本剣道連盟より「取消」とされてしまします。前段合格日は証状の日付を記入すること。
- 4、審査料及び登録料
- 1級受験に際し愛知県剣道連盟入会金として終身会費5,000円を納めなければなりません。



★ 第一回成田山奉納剣道大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 以上の受験者は修業年限の制度が厳格ですので前段合格日を正確に記入すること。前段合格日が不明確な場合は、合格しても全日本剣道連盟より「取消」とされてしまします。前段合格日は証状の日付を記入すること。
- 4、審査料及び登録料
- 1級受験に際し愛知県剣道連盟入会金として終身会費5,000円を納めなければなりません。



★ 第一回成田山奉納剣道大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 以上の受験者は修業年限の制度が厳格ですので前段合格日を正確に記入すること。前段合格日が不明確な場合は、合格しても全日本剣道連盟より「取消」とされてしまします。前段合格日は証状の日付を記入すること。
- 4、審査料及び登録料
- 1級受験に際し愛知県剣道連盟入会金として終身会費5,000円を納めなければなりません。



★ 第一回成田山奉納剣道大会

- 中学生の部
- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること。
- 4、競技種別 小学一・二年の部三・四年の部 五年・六年の部
- 5、試合方法 個人トーナメント方
- 6、表彰
- (1)優秀者に賞状、賞品を贈る。
(2)参加者に参加賞を贈る。
- 7、参加料 一人 五〇〇円

- 1、期日 昭和六十一年十一月三日(日) 九時
- 2、会場 犬山成田山正門広場(雨天中止)
- 3、参加資格 県下の小学生で県連登録団体であること

5、審査方法

(1) 形審査、実技審査

| 段位 | 初段 | 2段 | 3段 | 4段 | 5段 |
|----|---------|-----------|----------|----------|---------|
| 形 | 太刀1~5本 | 太刀1~7本 | " | 太刀1~7本 | 太刀1~3本 |
| 実技 | イ打切返し数回 | イしきけ技(相互) | 口地稽古(相互) | 口地稽古(相互) | 地稽古(相互) |
| | イ打切返し数回 | イしきけ技(相互) | 口地稽古(相互) | 口地稽古(相互) | 地稽古(相互) |
| | イ打切返し数回 | イしきけ技(相互) | 口地稽古(相互) | 口地稽古(相互) | 地稽古(相互) |

*以上の問題に対する解答はB4の用紙を使用し、当日審査会場受付に提出すること。

*形講習は、各地区行事日程により行なう。

*四・五段審査会申し込みの締切は審査会の十日前迄に各地区剣連に申し込むこと。

級審査について

級位の審査は、各地区連盟で、春

・夏・秋の三回、各市町村別で実施しておりますので実施回数は非常に多くなっております。

日時・会場等については、各地区連盟にお問合せ下さい。

●問合せ先
・名古屋地区剣道連盟
名古屋市中村区小鴨町一六一

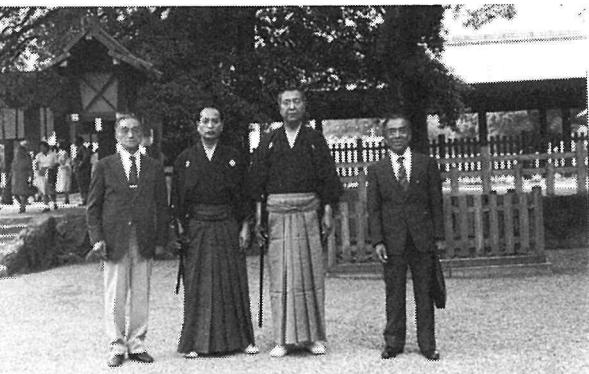
●(052)四二一三三四
・尾張地区剣道連盟
一宮市八幡四一一一一八
一宮武道館内

●(052)四二一三三五
・西三河地区剣道連盟
安城市相生町三の七

●(052)四二一三三五
・東三河地区剣道連盟

- 1、初段・式段
イ、剣道修業上「礼儀」の必要性を述べよ。
ロ、「かけ声」の効果を記せ。
ハ、「残心」を説明し、試合に於て「残心」のなかつた場合の罰則を記せ。
2、参段以上
イ、剣道の効果(目的)を述べよ。
ロ、「打突の機会」と「隙」との関係を記せ。

- 3、「残心」を説明し、剣道形(一本七本目)に於ての「残心」の方法を記せ。
●居合
居合修業の目的を述べよ。



左より 小川範士、中村八段、青山八段、安藤八段 於 熱田神宮

| 広報「観の眼」第八号 | |
|-----------------|-------|
| 事務局長 | 坂田平七郎 |
| 三輪田 薫 | 伊藤 弘之 |
| 深田 正夫 | 鈴村万龟夫 |
| 松田 和夫 | 村瀬 守男 |
| 内藤ビル二階 | 伊藤 弘之 |
| 名古屋市中村区鳥居通り二ノ四 | 鈴村万龟夫 |
| 電話 (052)四八一〇〇九三 | 伊藤 弘之 |

今年も又「観の眼」第8号がおられ実に申し訳ありません。ご寄稿いたしました諸先生、会員の皆様にお詫び申し上げます。
さて昭和五十九年度は新らしく全國家庭婦人剣道大会が日本武道館にて開催され剣道史の一ページを飾ることとなりました。愛知県も二チ一ムが参加健闘いたしましたが惜しくも敗れ巻土重来を期し六十年に備えております。

何かとお忙しいこの時節「観の眼」を通じ色々ご教示願へればと諸先生会員の皆様のご寄稿を心からおまち申しております。

編集後記

昭和60・61年度役員名簿

愛知県剣道連盟

| 役職名 | 氏名 | 〒 | 住所 | 所属 | 自宅TEL | 会社TEL |
|------|-------|--------|-------------------------|------|---------------|---------------|
| 名誉会長 | 竹田弘太郎 | 452 | 西春日井郡清洲町清洲530 | | | (052)571-2111 |
| 会長 | 杉山 孝雄 | 478 | 知多市八幡田渕1-59 | | (0562)34-8471 | (052)571-2111 |
| 副会長 | 太田 元次 | 454 | 中川区松年町4-66 | 名古屋 | | (052)652-7711 |
| | 光松 靖起 | 492 | 稻沢市北島町城34 | 尾張 | (0587)36-1026 | (0587)36-2115 |
| | 内藤正之助 | 474 | 大府市長草町前屋敷22 | 尾南 | (0562)46-1733 | |
| | 山田 満寛 | 445 | 西尾市若松町38 | 西三河 | (05635)6-3245 | |
| | 小川 正亮 | 442 | 豊川市豊川町仁保通り71 | 東三河 | (0538)6-4067 | |
| | 橋の口 求 | 460 | 中区三の丸2-1 (愛知県警本部) | 警務部長 | | |
| 相談役 | 鈴木 房吉 | 440 | 豊橋市東旭町315 | 範士 | (0532)55-2693 | |
| | 佐藤 善記 | 467 | 瑞穂区弥富通5-19マルエムビル1F 102号 | 範士 | (052)831-1430 | |
| | 浅野 八郎 | 451 | 西区花ノ木3-6-19 | 範士 | (052)521-6703 | |
| | 近藤 利雄 | 458 | 緑区ほら貝2-7 | 範士 | (052)876-8864 | |
| | 加藤万寿一 | 461 | 東区出来町3-9-8 | 範士 | (052)711-7629 | |
| | 榎原 正 | 463 | 守山区元郷一丁目1101大森東住宅17-102 | 範士 | (052)798-0479 | |
| | 池内 秀夫 | 466 | 昭和区北山町3-48 | 範士 | (052)732-5998 | |
| | 匹田 勝夫 | 440 | 豊橋市八町通5-62 | 範士 | (0532)52-1016 | |
| | 横山 定雄 | 462 | 北区大杉1-25-4 | 範士 | (052)931-5113 | |
| | 杉山 文蔵 | 466 | 昭和区小桜町1-3 | 範士 | (052)741-3044 | |
| | 松浦新一郎 | 461 | 東区出来町3-903 | 範士 | (052)711-8897 | |
| | 森 武雄 | 464 | 千種区内山3-28-6 | 教士 | (052)731-8101 | |
| | 船橋 正一 | 485 | 小牧市小牧2099-2 | 教士 | (0568)76-2511 | |
| 参与 | 安藤 兼一 | 486 | 春日井市妙慶町3-33 | 八段 | (0568)31-4488 | |
| | 翁長 良明 | 480-11 | 愛知郡長久手町上川原10-4 | 八段 | (0561)2-4536 | (0568)77-3121 |
| | 柳田 左内 | 472 | 知立市昭和6-1 知立団地72-101 | 八段 | (0566)81-7833 | |
| | 青山 定男 | 491 | 一宮市浅野一本杉7 | 八段 | (0586)77-1498 | (05875)6-2127 |
| | 水野 登 | 470-21 | 知多郡東浦森岡字上田面141 | 尾南 | (05628)3-5698 | |
| 理事長 | 加藤 文雄 | 464 | 千種区千種3丁目12-3 | | (052)732-2351 | |
| 副理事長 | 谷 錠吉郎 | 491 | 一宮市西大海道郷東139 | 尾張 | (0586)77-3224 | |
| | 加藤 信雄 | 453 | 中村区小鴨町161 | 名古屋 | (052)411-7295 | |
| | 浜田 修作 | 475 | 半田市雁宿3-210 | 尾南 | (0569)22-6300 | (0569)23-3351 |
| | 阿部 久治 | 446 | 安城市上条町山端連50 | 西三河 | (0566)74-5645 | |
| | 鈴木 健一 | 440 | 豊橋市上伝馬町35 | 東三河 | (0532)54-9567 | |
| 理事 | 山本 芳郎 | 491 | 一宮市向山町1-18 | 尾張 | (0586)73-6523 | (0586)43-1023 |
| | 伊藤 弘之 | 480-01 | 丹羽郡扶桑町柏森中屋敷115 | 尾張 | (05879)3-2005 | |
| | 日置富士雄 | 491 | 一宮市柚木町512-2 | 尾張 | (0586)77-0571 | |
| | 村瀬 守男 | 498 | 海部郡弥富町大字平島新田字西新田91 | 尾張 | (05676)7-0022 | |
| | 中村 薫 | 480-03 | 春日井市神屋町654-346 | 尾張 | (0568)88-1782 | |
| | 三輪田 薫 | 466 | 昭和区村雲町15-5 | 名古屋 | (052)871-3947 | |
| | 二村 忠男 | 453 | 中村区岩塙3-176 | 名古屋 | (052)412-2231 | |
| | 水野 八郎 | 454 | 中川区月島町7-2 | 名古屋 | (052)351-9876 | |
| | 水谷 徳正 | 460 | 中区新栄2丁目4-23 | 名古屋 | (052)261-8750 | |

| 役職名 | 氏 名 | 〒 | 住 所 | 所 属 | 自宅 T E L | 会社 T E L |
|------|---------|--------|--------------------------|------|---------------|---------------|
| 理事 | 鈴村万亀夫 | 460 | 中区上前津1-6-1 | 名古屋 | (052)321-9338 | |
| | 山本 重夫 | 457 | 南区楠町66 | 名古屋 | (052)811-3616 | (052)611-2511 |
| | 伊藤 一彦 | 468 | 天白区天白町平針向田415-3 メゾン平針104 | 名古屋 | (052)802-8011 | |
| | 岩田 豊三 | 462 | 北区清水3-11-22 | 名古屋 | (052)912-2931 | (052)531-1125 |
| | 木本 三夫 | 464 | 千種区丸山町1-71 | 名古屋 | (052)761-0171 | |
| | 神成 一男 | 463 | 守山区大字森孝新田字白山350-542 | 名古屋 | (052)774-2481 | |
| | 長谷川録郎 | 478 | 知多市清水が丘二丁目1511-1 | 尾三南 | (0562)32-6598 | |
| | 北村 豊 | 470-11 | 豊明市新田町古池16-6 | 尾三南 | (0562)92-4337 | |
| | 伊藤 熱次 | 477 | 東海市高横須賀町真光寺20 | 尾三南 | (0562)32-0103 | (0562)33-1477 |
| | 太田 吉郎 | 446 | 安城市河野町藤野郷110 | 西三河 | (0566)99-1461 | |
| | 福田 俊雄 | 472 | 知立市昭和6-1 知立団地67-205 | 西三河 | (0566)81-7674 | (0566)82-5151 |
| | 石川富三郎 | 444 | 岡崎市能見町225 | 西三河 | (0564)23-3715 | |
| | 稻垣 徳三 | 444-03 | 西尾市羽塚町宮前38. 39 | 西三河 | (05635)9-7382 | |
| | 浅井 功夫 | 446 | 安城市相生町3-7 | 西三河 | (0566)76-1194 | (0566)76-2151 |
| | 牧野 登 | 441-01 | 宝飯郡小坂井町伊奈縫殿26 | 東三河 | (0533)8-2721 | |
| | 原 由一 | 440 | 豊橋市横須賀町重森1-3 | 東三河 | (0532)52-9827 | |
| | 富田 孝夫 | 443-01 | 蒲郡市形原町西御屋敷28-2 | 東三河 | (0533)57-2769 | |
| | 松本 武 | 443 | 蒲郡市中央本町20-11 | 東三河 | (0533)69-4964 | |
| | 坂田平七郎 | 483 | 江南市力長261-1 | 会長指名 | (05875)5-8044 | (052)481-7436 |
| | 前田 治雄 | 468 | 天白区八事石坂107 | 道場連 | (052)831-0178 | |
| | 細田 鍾郎 | 484 | 犬山市西北野132 | 実業連 | (0568)67-0639 | (052)683-2411 |
| | 寺沢 将美 | 483 | 江南市大字宮後658 | 小中体連 | (05875)5-1563 | |
| | 小山 宗章 | 486 | 春日井市藤山台5-12-4 | 高体連 | (0568)91-4607 | (052)901-0338 |
| | 林 邦夫 | 470-03 | 豊田市龜首町東畠94-2 | 大学 | (0565)45-0971 | |
| | 深田 正夫 | 464 | 千種区本山町1-4 | 警察 | (052)751-5346 | |
| | 鈴木 瞭 | 490-01 | 一宮市浅井町河端吹49-1 | 警察 | (0586)78-5448 | |
| | 川口 錦哉 | 462 | 北区名城2丁目1-11-54 | 官公庁 | (052)981-0745 | |
| | 秋田 森治 | 453 | 中村区稲葉地町5-18 | 居合道 | (052)412-3650 | |
| | 石田 博昭 | 455 | 港区当知町3-3801当知住宅 | 杖道 | | |
| 監事 | 国松 巍 | 466 | 昭和区川名山町20 | | (052)832-1023 | |
| | 鈴木 守治 | 442 | 豊川市為当町市木37 | | (0533)75-3320 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 事務局長 | 松田 和夫 | 488 | 尾張旭市桜ヶ丘町西127-20 | | (05615)4-8451 | (052)481-0093 |
| | | | | | | |
| 事務局 | 愛知県剣道連盟 | 453 | 名古屋市中区鳥居通り2-41内藤ビル2F | | (052)481-0093 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

題字・名誉会長 竹田弘太郎氏